

平成 22 年全国女性建築士連絡協議会 基調講演 「女性とまちづくり」

講師 宗田 好史 氏 (京都市立大学 准教授)

基調講演は、京都市立大学 宗田好史准教授をお迎えし、「女性とまちづくり」と題し、女性の力に着目して社会の女性化についてお話をしました。

内容

女性化する消費

1985 年男女雇用機会均等法が成立して以降、四半世紀に渡り、都心オフィス街の女性就業者の割合が増加し続け、この影響が消費を変え、街を変えてきた。

街の様相も金融ビックバンで空いたオフィスが飲食店で埋まり、飲食店の増加により都心を活性化させてきた。また、オフィス街には、サービス業が増え、特に美容系の増加は著しいものがあり、エステ・リラクゼーション、学習支援業、医療・福祉系等が都心ビジネス街を変えつつある。

女性化する京都観光

1986 年を境に、女性観光客は倍増、男性観光客は半減し、女性 7 割、男性 3 割の観光地に。その後男性観光客は少し戻りつつあるが、その観光行動、消費は女性化？している。飲食費が土産物費を上回り、女性に売れる飲食店・土産物店が顕著に伸びている。交通行動も変わり、脱車の観光が上昇してきた。

女性化に追い付けない社会の問題

雇用機会は男女均等になっても、その他の部分で日本人の意識が追い付いていない。古い社会常識が残る中で、雇用だけが開かれたのである。

制度改革と遅れた国民意識の格差の中で苦闘し働く日本女性、この格差が続く限り、出生率も経済も回復しないのではないか？

それにも増して、社会の将来への失望感が広がっており、若い女性も希望を持ってないでいる？

女性化する社会の都市と建築とは？

古い常識が、あちこちで、まだあまりに多い？

都市にも建築にも、そして業界にも、「古い常識の塊」、徒に過去を懐かしみ、人情論に訴える「澱のような価値観」が残っている？

「素朴な善意」、「大人の常識」が変革を拒み、社会の発展を阻害していないか？

エネルギーは潜在している。それをどうすれば開放できるのか？